

水稻生育調査結果【令和2年7月28日調査】

品種	ID	調査場所	草 丈 (cm)						㎡当たり茎数 (本/㎡)						株当たり茎数 (本/株)						葉 齢 (枚)						葉 色						出 穂 期		
			本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年	本 年	前 年	平 年			
コシヒカリ	1	羽咋市立開	94.4	95.0	99%	93.4	101%	385	361	107%	379	102%	21.2	19.9	107%	18.9	112%	13.5	13.0	104%	13.1	103%	4.00	3.50	114%	-	-	7月30日	7月27日	7月30日					
コシヒカリ	3	志賀町福野	94.3	98.8	95%	94.1	100%	351	410	86%	380	92%	21.4	24.9	86%	19.2	111%	13.1	13.2	99%	13.3	99%	3.88	4.00	97%	-	-	8月1日	7月29日	8月1日					
コシヒカリ	4	志賀町八幡座主	91.3	90.6	101%	87.4	105%	470	363	130%	388	121%	28.5	22.0	130%	20.6	138%	13.1	13.6	96%	13.7	95%	4.50	4.25	106%	-	-	8月2日	7月31日	8月3日					
コシヒカリ	2	中能登町小竹	91.4	88.0	104%	90.9	100%	390	500	78%	380	103%	18.0	23.1	78%	18.3	98%	13.0	13.3	98%	13.3	98%	4.13	4.25	97%	-	-	8月3日	8月1日	8月3日					
コシヒカリ	3	七尾市中島町河崎	97.2	98.6	99%	90.8	107%	451	438	103%	402	112%	28.4	27.6	103%	20.4	139%	13.1	13.7	96%	13.5	97%	4.25	4.25	100%	-	-	8月2日	7月28日	8月4日					
コシヒカリ	平均	平 均	93.7	94.2	99%	91.3	103%	410	414	99%	386	106%	23.5	23.5	100%	19.5	120%	13.1	13.3	98%	13.4	98%	4.15	4.05	102%	-	-	8月1日	7月29日	8月2日					
ひやくまん穀	9	羽咋市千路町	92.5	87.4	106%	94.6	98%	358	318	113%	321	112%	20.5	18.2	113%	17.4	118%	13.7	13.9	99%	13.9	99%	4.25	3.75	113%	4.21	101%	8月7日	8月6日	8月7日					
ひやくまん穀	9	七尾市中島町笠師	86.0	82.0	105%	84.7	102%	472	503	94%	464	102%	25.6	27.2	94%	24.6	104%	13.6	13.0	105%	12.8	107%	4.38	4.25	103%	4.17	105%	8月13日	8月8日	8月11日					
ひやくまん穀	平均	平 均	89.2	84.7	105%	89.6	100%	415	410	101%	393	106%	23.0	22.7	101%	21.0	110%	13.6	13.4	102%	13.3	102%	4.31	4.00	108%	4.19	103%	8月10日	8月7日	8月9日					

生育概況

- **ゆめみづほの出穂期は、前年より1日遅く、平年より4日早い7月19日頃**となった。
- コシヒカリの草丈は、平年及び前年並。ひやくまん穀の草丈は、前年よりやや長い。
- コシヒカリの茎数は、株当たりでは23.5本と平年（19.5本）より多く、前年（23.5本）並。なお、㎡当たり茎数は、平年及び前年並。
- **コシヒカリは、出穂期は平年より1日早く、前年より3日遅い8月1日頃**と見込まれる。
- **ひやくまん穀の出穂期は、現在の葉耳間長や幼穂長から、前年より3日遅い8月10日頃**と予測される。ただし、ほ場によるバラつきが大きく、また、今後の気象により出穂期が変動することが考えられる。
- **一部のほ場で、葉いもちの病斑が見られる。**

今後の管理

コシヒカリは間もなく出穂期を迎えるので追肥は行わない。出穂期を確実に把握し、今後の防除や水管理の計画を立てる。

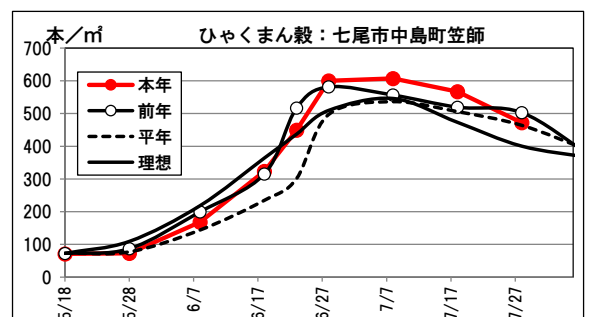
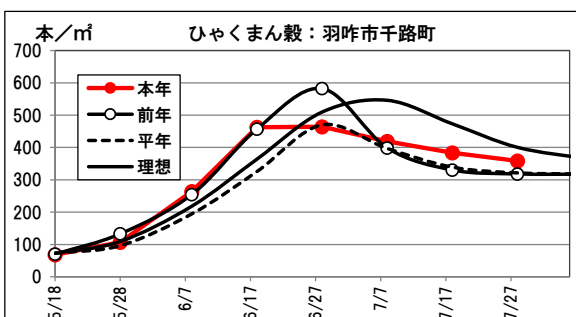
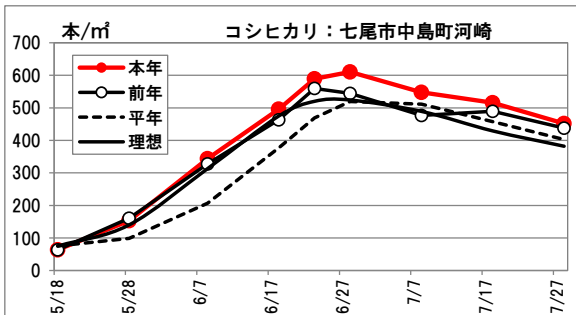
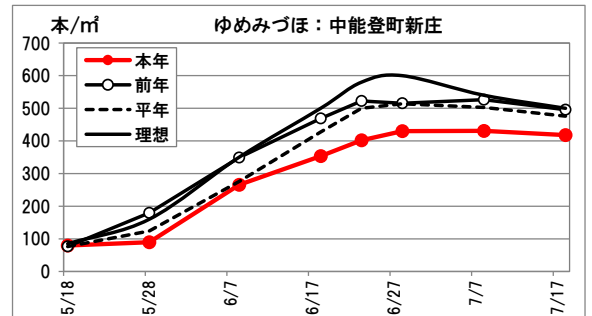
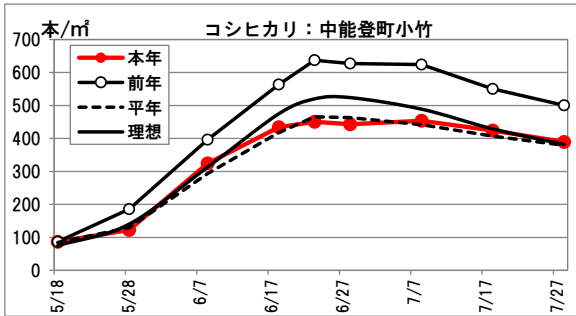
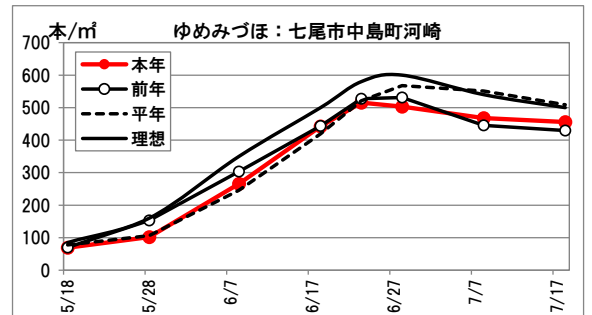
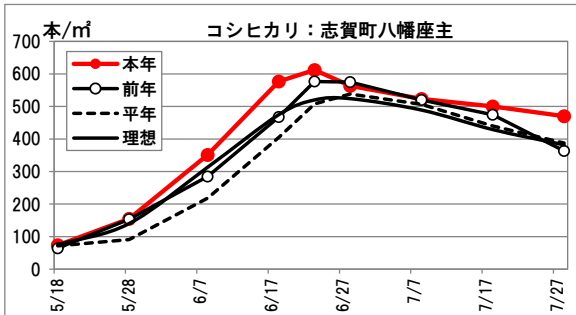
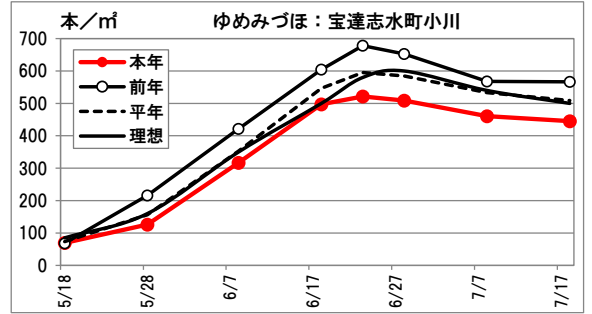
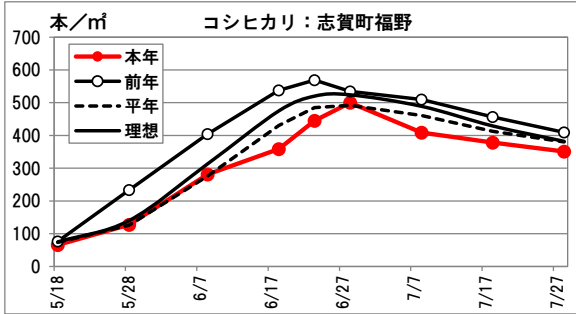
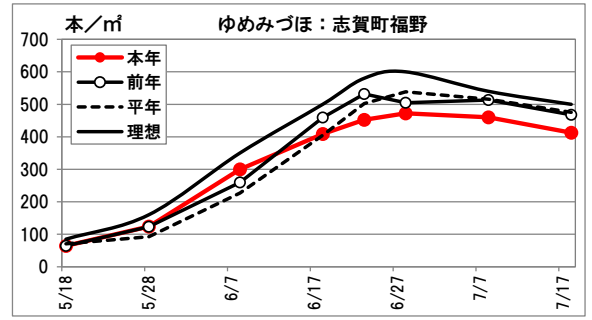
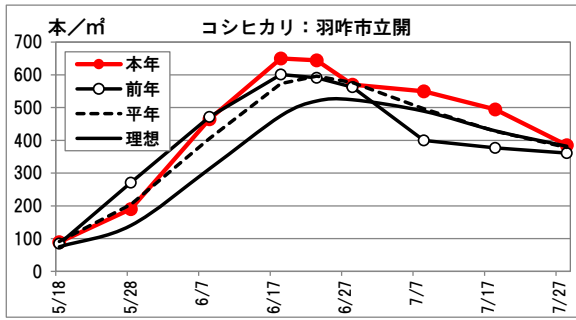
【水管理】

- 幼穂形成期から出穂期にかけては、登熟向上に重要な下葉の活力維持に必要な表層根が発生する時期である。また、出穂期以降は新根の発生がほとんどなくなる。よって、**表層根量を確保し、根の機能を収穫間際まで維持させるため、長期間の湛水管理や極度な土壌乾燥はさせないこと。**なお、台風等の接近に伴い、**強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ水田に入水し、通過後はすみやかに落水を行うこと。**

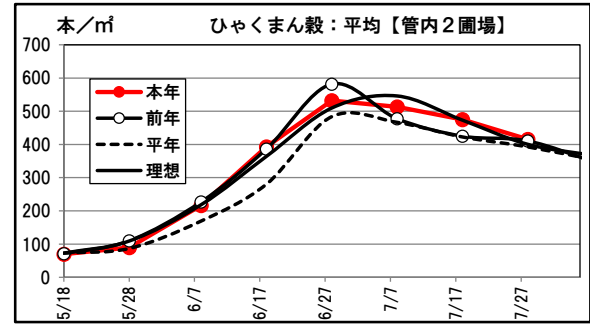
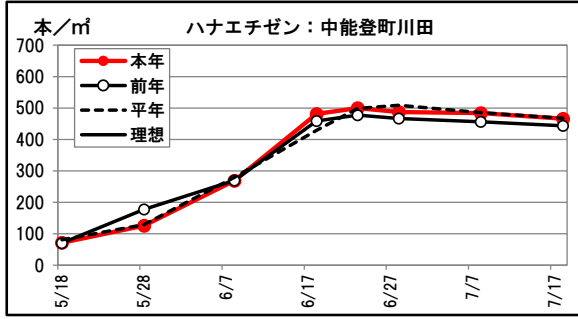
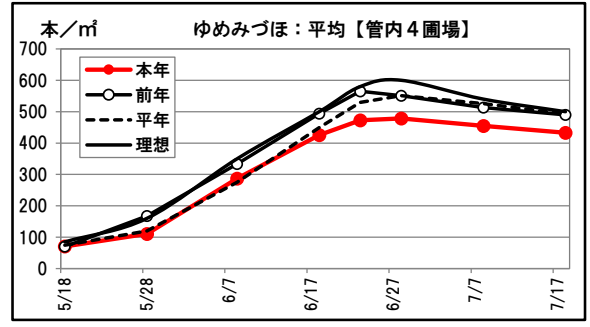
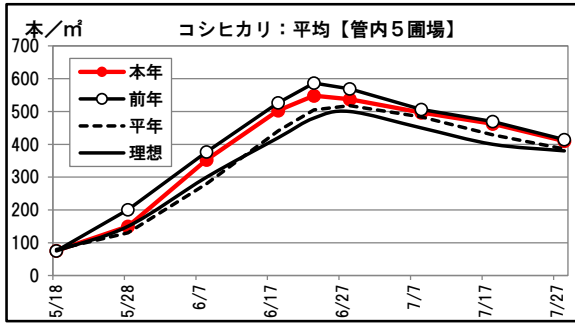
【病害虫対策】

- 斑点米カメムシ類の本田侵入量調査結果（7月23日調査）は、JAはくい管内で13.5頭/筆、捕獲地点率95%、JA志賀管内で3.9頭/筆、捕獲地点率88%、JA能登わかば管内で18.0頭/筆、捕獲地点率100%となっている。**1筆当たり捕獲頭数は平均11.3頭で、平年（H22～R1：4.1頭）の2.8倍と本田侵入量は多くなっている。**
- 特に、**クモヘリカメムシの1筆当たり捕獲頭数は平均8.3頭で、捕獲頭数が多かった昨年（平均：3.1頭）よりも2.6倍と非常に本田侵入量は多くなっている。**クモヘリカメムシは、登熟中期まで加害するため、3回の防除を徹底する。
- 雑草地の除草は、斑点米カメムシの本田侵入を助長するので、**やむを得ず除草する際は、基幹防除の直前に行う。**また、**出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底する。**
- **いもち病が多発するおそれがある。**については、**こまめにほ場を巡回し、葉いもちの早期発見に努める。**発生を認めたら、周辺のほ場や地域への拡散状況を確認するとともに、晴れ間を見はからい、直ちに「ブラシン粉剤DL」を3～4kg/10a散布する。**ずり込み症状を呈するほ場では、4～5日後に薬剤の再散布を行うこと。**なお、**葉いもち発生の有無に関わらず、基幹防除を徹底する。**
※ ブラシン粉剤DLは、1ほ場当たり2回しか使用できないので注意する。

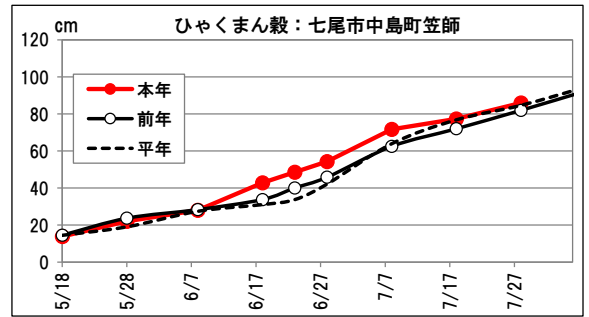
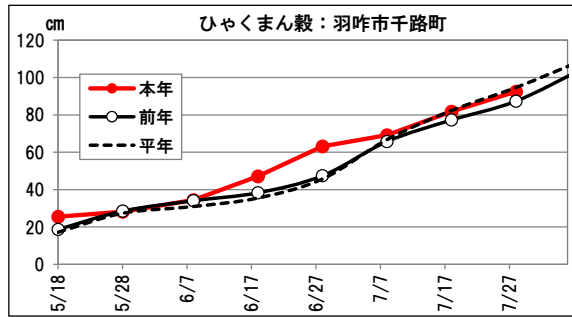
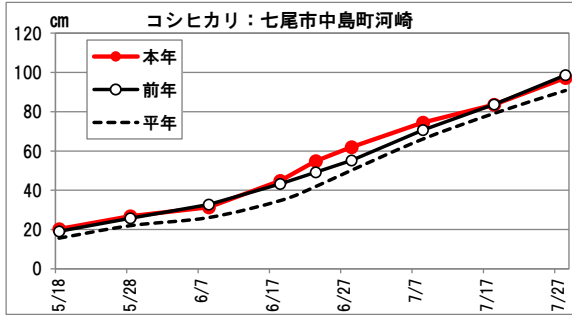
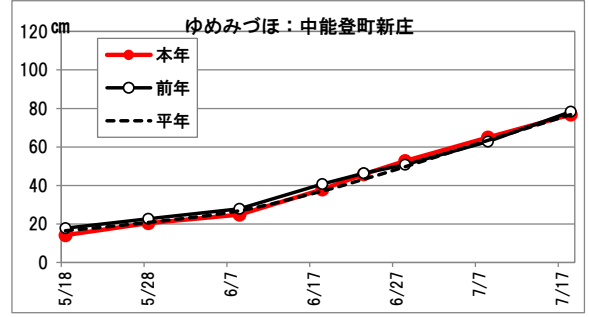
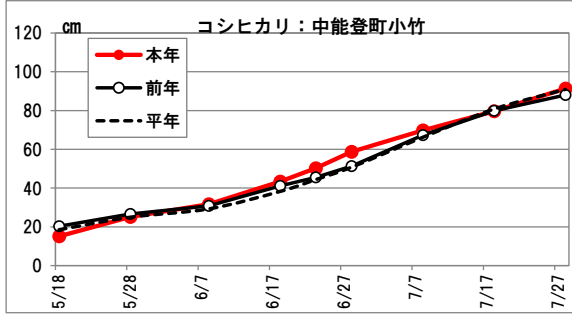
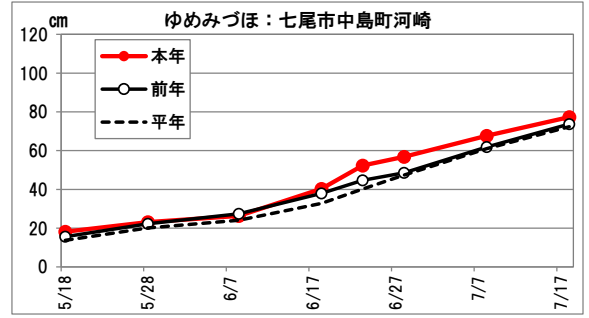
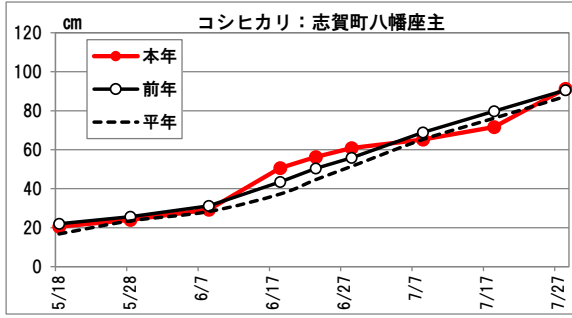
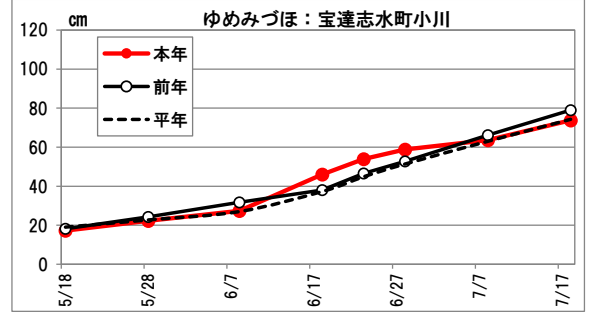
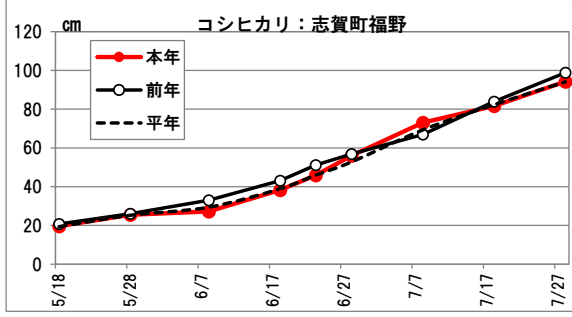
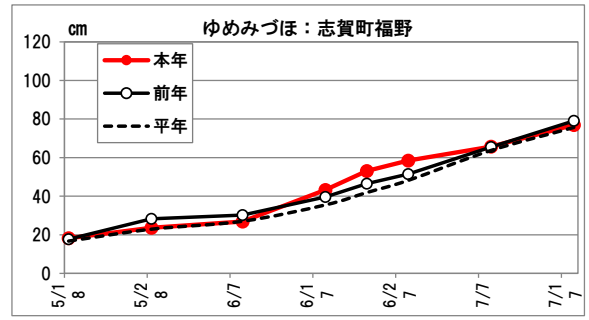
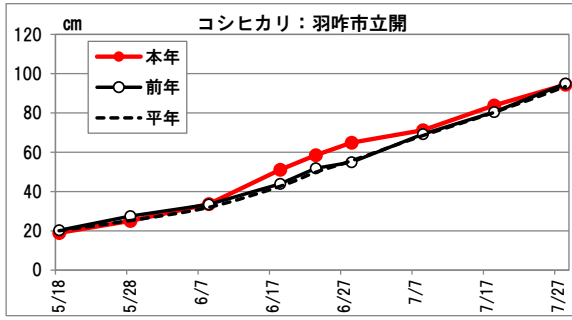
R02年度 水稲生育観測田 生育経過【茎数推移】グラフ



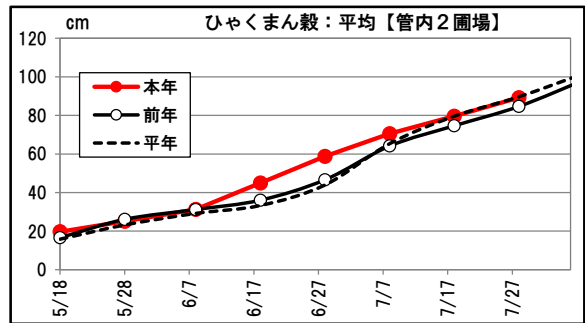
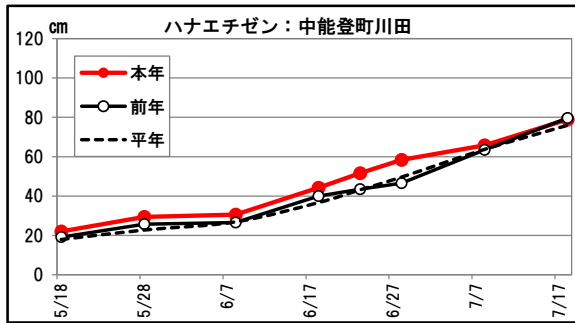
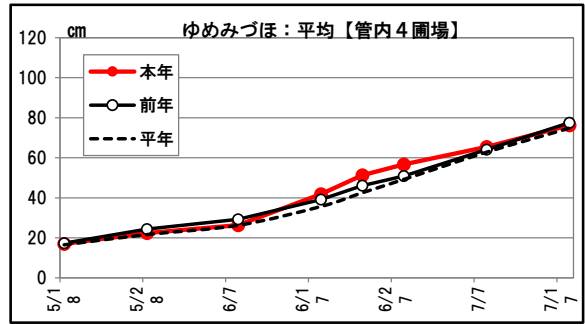
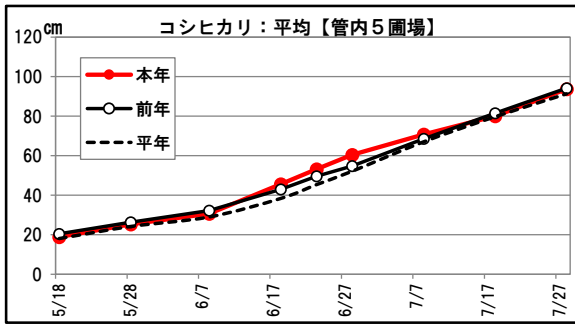
R02年度 水稲生育観測田 生育経過【茎数推移】グラフ



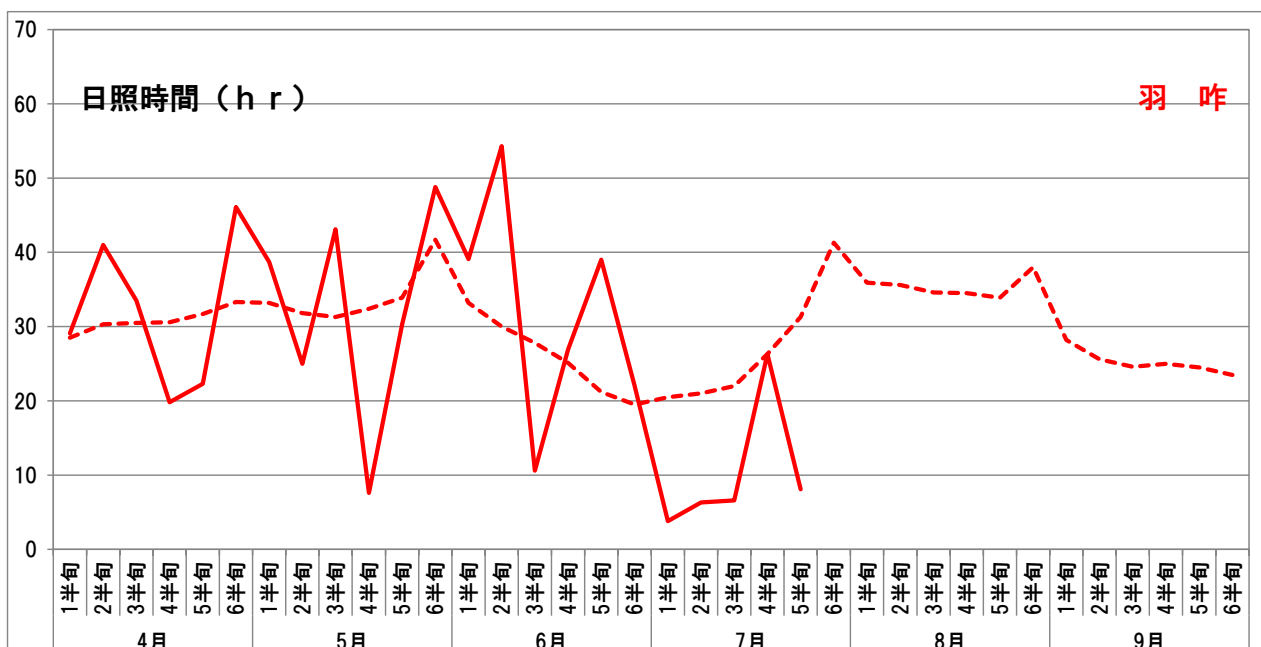
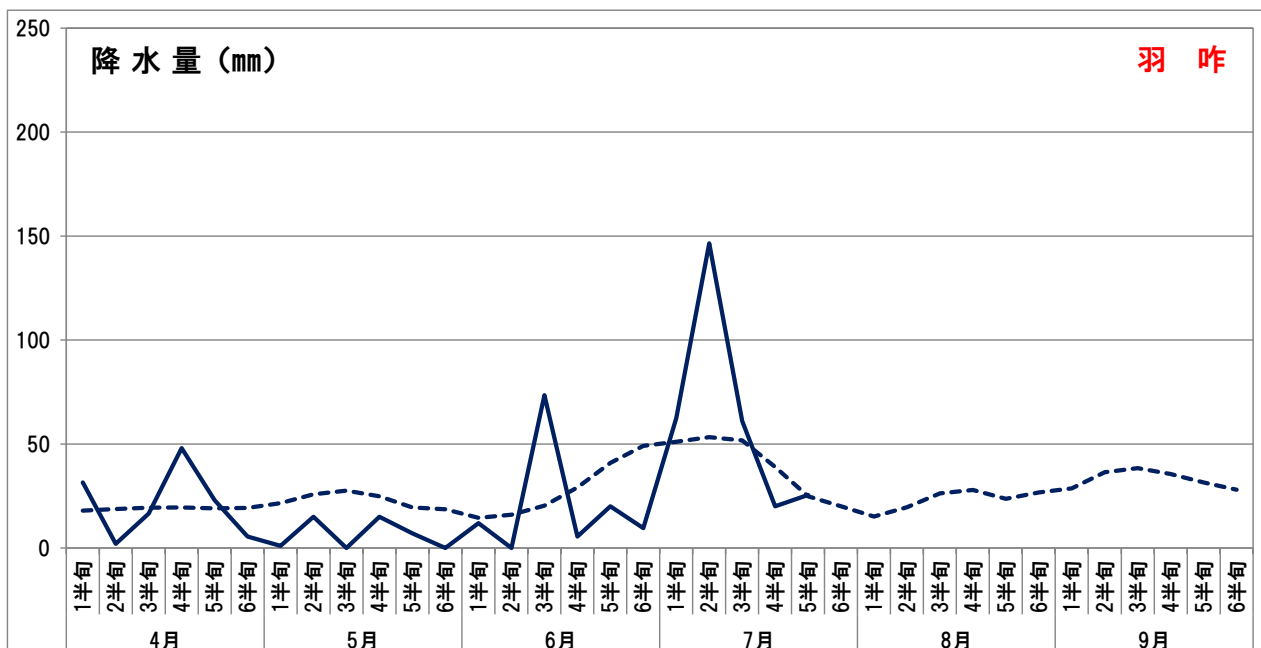
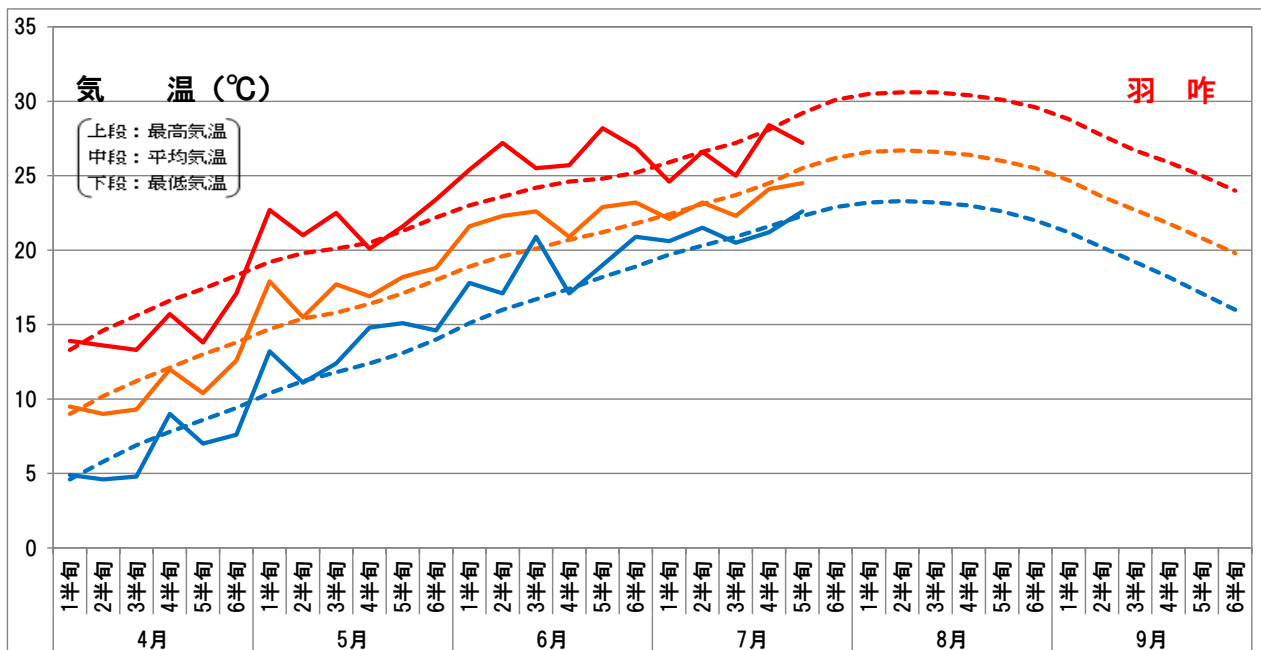
R02年度 水稲生育観測田 生育経過【草丈推移】グラフ



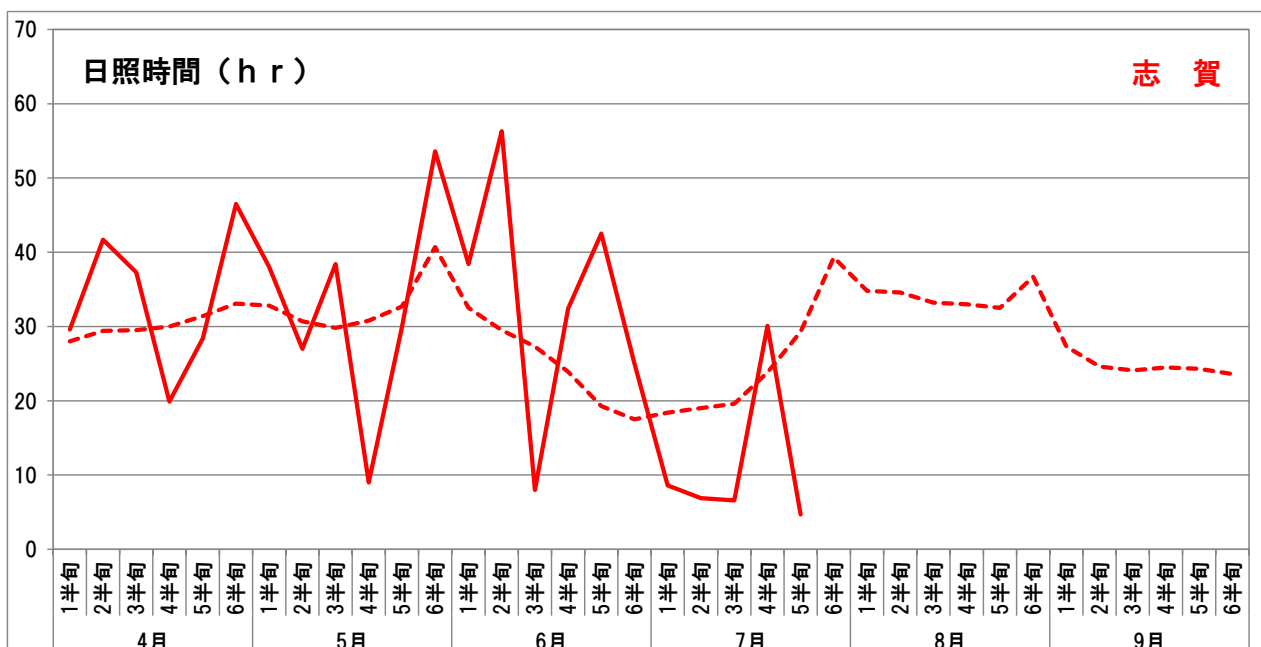
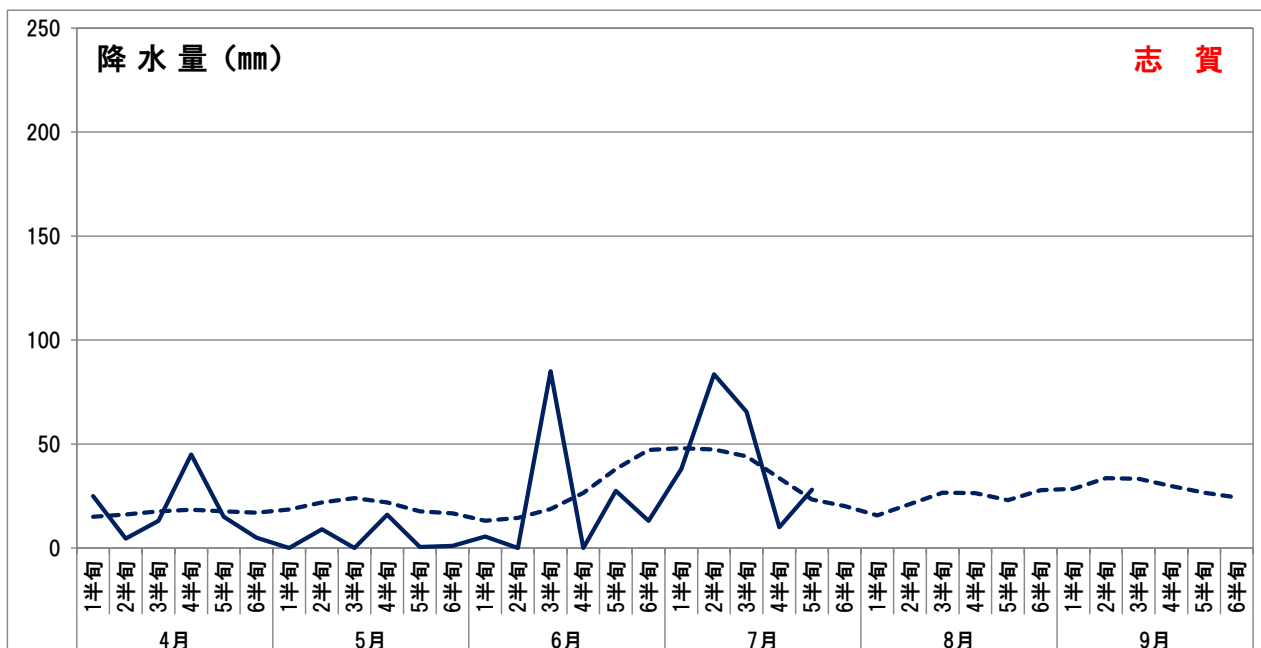
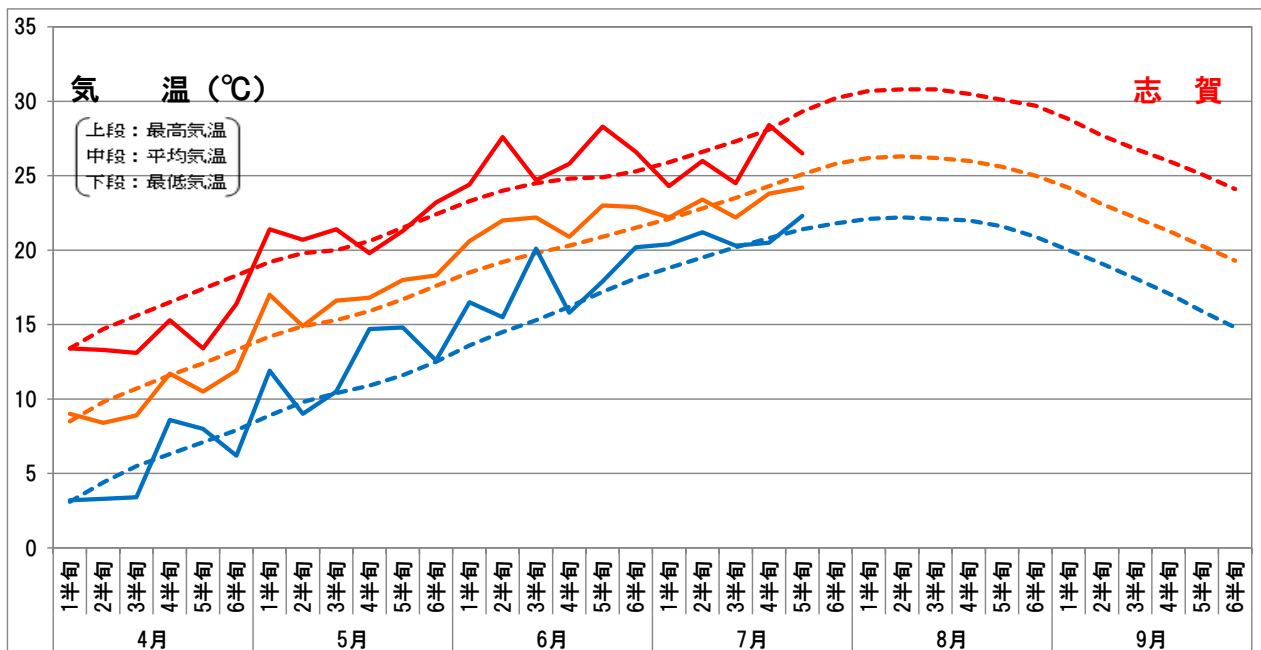
R02年度 水稲生育観測田 生育経過【草丈推移】グラフ



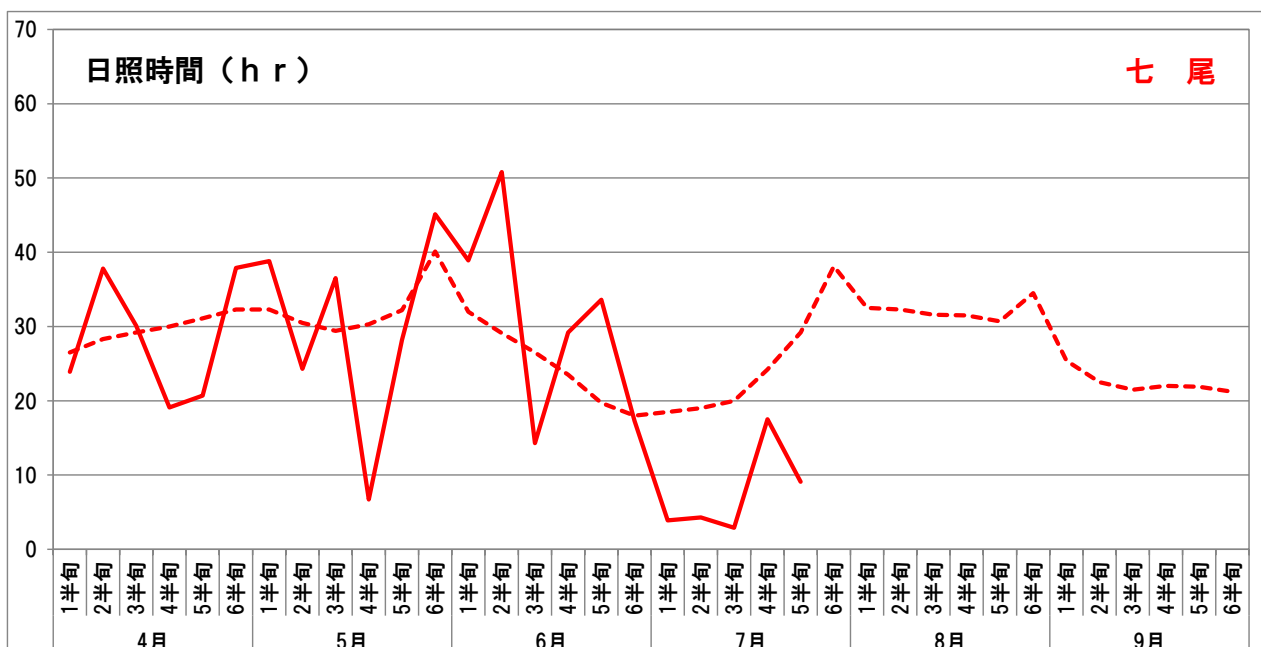
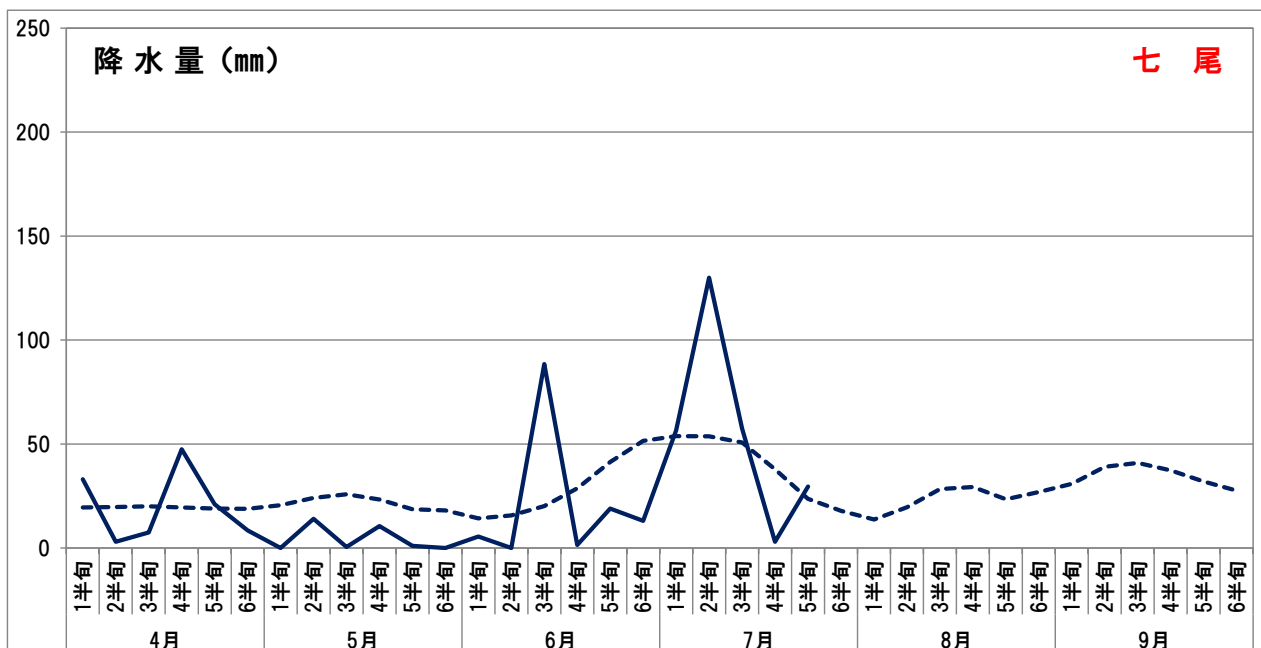
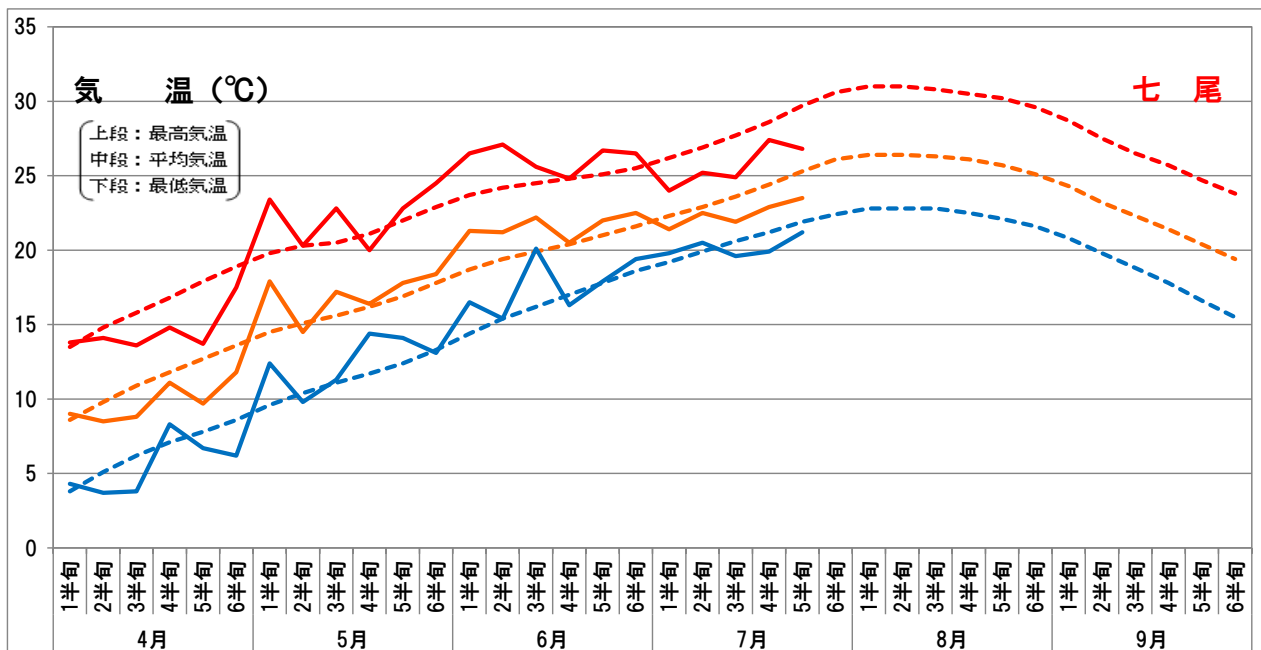
2020年 水稲生育期間中の気象状況 [半旬別グラフ 4月～9月 羽咋]



2020年 水稲生育期間中の気象状況 [半旬別グラフ 4月～9月 志賀]



2020年 水稲生育期間中の気象状況 [半旬別グラフ 4月～9月 七尾]



季節予報：北陸地方

再読込

北陸地方 1か月予報

(8月1日から8月31日までの天候見通し)

令和2年7月30日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

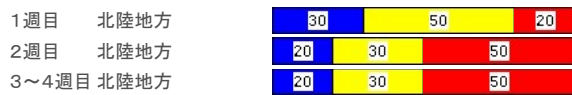
週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月 1日(土)～ 8月31日(月)

1週目 : 8月 1日(土)～ 8月 7日(金)


2週目 : 8月 8日(土)～ 8月14日(金)

3～4週目 : 8月15日(土)～ 8月28日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週木曜日 14時30分 次回は8月6日

3か月予報:8月25日(火) 14時

 このサイトには、Adobe社 [Adobe Reader](#) が必要なページがあります。
お持ちでない方は左のアイコンよりダウンロードをお願いいたします。

北陸地方 3か月予報

(8月から10月までの天候見通し)

令和2年7月22日
新潟地方気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

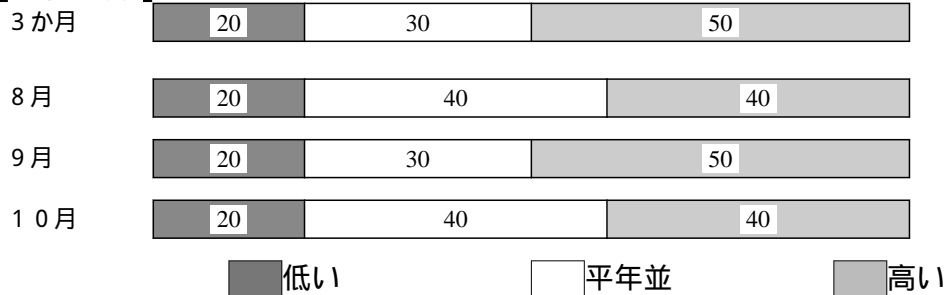
9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

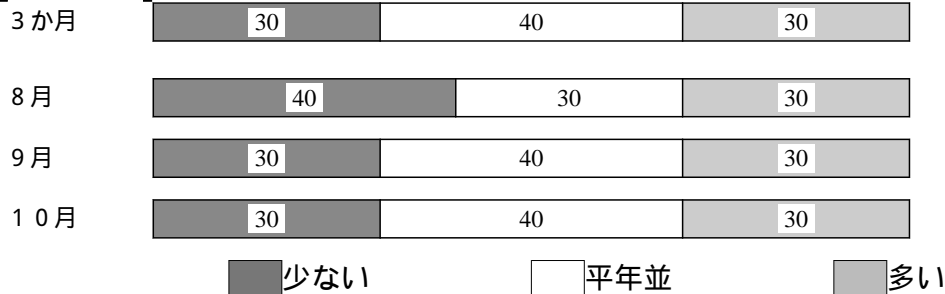
<<気温>>

[北陸地方]



<<降水量>>

[北陸地方]



<次回発表予定等>

1か月予報：毎週木曜日 14時30分 次回は7月23日

3か月予報：8月25日(火) 14時

なお、8月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

< 参考資料（平年並の範囲等） >

(1) 平年値（月・3か月平均気温、降水量、日照時間）

	気 温()				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	8月	9月	10月	8月~10月	8月	9月	10月	8月~10月	8月	9月	10月	8月~10月
輪島	25.7	21.6	15.9	21.1	155.8	213.5	156.4	525.7	206.8	138.2	142.0	487.0
相川	26.0	22.1	16.9	21.7	125.4	142.2	125.2	392.7	215.7	152.4	152.4	520.5
新潟	26.4	22.5	16.3	21.7	140.6	155.1	160.3	456.0	211.1	162.8	140.1	513.9
金沢	27.0	22.7	17.1	22.3	139.2	225.5	177.4	542.1	221.5	144.1	150.4	516.0
伏木	26.5	22.4	16.6	21.9	155.8	210.9	153.0	519.7	205.1	137.7	145.1	487.9
富山	26.6	22.3	16.4	21.8	168.3	220.2	160.7	549.2	201.3	133.1	142.7	480.9
高田	26.3	22.0	16.0	21.4	150.4	206.2	210.8	567.3	195.0	129.4	134.5	458.9
福井	27.2	22.7	16.6	22.2	127.6	202.3	144.9	474.8	206.8	142.0	151.8	500.7
敦賀	27.4	23.4	17.6	22.8	125.5	188.2	135.2	448.9	201.6	139.5	145.8	486.9

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

(2) 1981～2010年のデータに基づいた8月～10月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	8月	9月	10月	8月～10月
気温平年差()	北陸地方	-0.5～+0.5	-0.4～+0.3	-0.3～+0.4	-0.4～+0.4
降水量平年比(%)	北陸地方	76～122	68～121	86～109	90～107
日照時間平年比(%)	北陸地方	92～109	94～107	94～106	96～104

(3) 接近する台風の平年値

	8月	9月	10月
北陸地方	0.9	0.8	0.2

< 参考資料（利用上の注意） >

- (1) 気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1981～2010年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。
- (2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられませんが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。